

TATEBAYASHISHINKIN BANK REPORT

2022

令和4年度上期館林信用金庫の現況
(令和4年9月末)



 たてしん

館林信用金庫と地域社会

～ 地元とともに～

令和4年9月末現在

1 たてしんの経営理念・行動指針

■経営理念

1. たてしんは、金融サービスを通じて、地域経済の発展に貢献します。
2. たてしんは、お客さまの満足と感動のために活動し、共に未来を築きます。
3. たてしんは、地域社会の一員として、社会における役割を積極的に果たします。
4. たてしんは、堅実経営に徹し、働きがいのある職場づくりに努めます。

■行動指針

1. 私たちは、地域経済繁栄の担い手として、金融仲介機能の発揮、価値ある金融サービスの提供により、企業の振興と地域の活性化、豊かな生活づくりに貢献していきます。
2. 私たちは、お客さまの満足と感動を第一に、何をすればよいのか、何が最良なのかを創意工夫し、地域の発展を目指していきます。
3. 私たちは、地域社会の一員としての責任を自覚し、あらゆる法令やルール、社会的規範を遵守し、誠実かつ公正に日々の業務に取り組み、社会における役割を積極的に果たしていきます。
4. 私たちは、健全な金融機関として、より強固な経営基盤の構築に努めると共に、役職員の幸せと、活気に満ちた働きがいのある職場を作っていきます。

2 当金庫の事業地域と地域経済活性化への取り組み

当金庫は、群馬県館林市、太田市、桐生市（旧新里村、黒保根村を除く）、邑楽郡、栃木県佐野市（旧田沼町、葛生町を除く）、足利市、栃木市（旧栃木市、大平町、都賀町を除く）及び加須市（旧加須市、騎西町、大利根町を除く）を事業地域として、地元の中小企業者や住民が会員となって、お互いに助け合い、お互いに発展していくことを共通の理念として運営されている相互扶助型の金融機関です。地元のお客さまからお預かりした大切な資金（預金積金）は、地元で資金を必要とするお客さまに融資を行って、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として地元の中小企業者や住民との強い絆とネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めております。また、金融機能の提供にとどまらず、文化、環境、教育といった面も視野に入れ、広く地域社会の活性化に積極的に取り組むために、当金庫営業エリアにある各自治体等（館林市・館林商工会議所、邑楽町・邑楽町商工会、板倉町・板倉町商工会、明和町・明和町商工会）と地域活性化に向けた包括連携協定を締結しています。

3 預金積金に関する事項（地域からの資金調達の状況）

当金庫では、地域のお客さまの資金づくりのお手伝いをさせていただくため、ライフサイクルに合わせた新商品の開発やサービスの充実に向けて努めております。

当金庫で取り扱っている商品については、2022年版ディスクロージャー誌の12ページをご覧ください。

預金積金残高 139,121百万円

4 貸出金（運用）に関する事項（地域への資金供給の状況）

お客さまからお預かりしました預金積金は、お客さまのさまざまなニーズに応え、地域経済の活性化に資するため、貸出金を通して地域社会に還元しております。貸出金は、設備資金として366億円、運転資金として337億円を融資しております。うち、個人のお客さまには住宅資金として100億円、消費者ローン等に18億円を融資しております。

当金庫で取り扱っている商品については、2022年版ディスクロージャー誌の13ページをご覧ください。

貸出金残高 70,345百万円 預金に占める貸出金の割合 50.5%

5 貸出金以外の運用に関する事項

余資運用残高は前年同期比2,287百万円の増加となりました。うち、有価証券は40,896百万円で前年同期比2,263百万円増、率では5.85%増、様々なリスク等を考慮した慎重な運用を行いました。預け金（無利息を除く）については32,865百万円で前年同期比23百万円増、率では0.07%の増となりました。

余資運用残高 73,761百万円 ※余資とは有価証券、預け金のことです。

6 今期決算に関する事項

前年同期比で預金積金は2.53%増加し、貸出金は1.14%減少しました。損益状況においては、経常収益は資金運用収益が増加しましたが、役員取引等収益、その他業務収益、臨時収益の減少により前年同期比52百万円減少、経常費用は経費や一般貸倒引当金繰入額等が増加しましたが、その他業務費用、臨時費用等の減少により前年同期とほぼ同額となり、経常利益204百万円、業務純益217百万円、当期純利益158百万円の計上となりました。

7 社会的責任と地域貢献活動の取組

1) 献血と寄付金の負担

毎年6月15日の「信用金庫の日」にちなみ、6月から8月に掛けて多くの職員が献血を実施しております。また、募金活動も「信用金庫の日」と年末のNHK歳末助け合い募金に、それぞれ全役職員協力参加しております。

2) 夏祭りへの参加

館林市および近隣各町で開催される夏祭りに当該地区店舗の役職員が参加しています。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、中止となりました。

3) AEDの設置

お客様や近隣の方々が心筋梗塞等発病により心肺停止状態になった場合、応急処置がほどこせるよう、館林市役所出張所、板倉ニュータウン出張所を除き全店にAEDを設置しております。各設置店においては、万が一に備え定期的にAEDの取扱い訓練を行っています。

8 取引先への支援・つながり、トピックス

1) ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

(1) 創業・新事業支援

当金庫は、平成26年度に館林エリアの10支援団体が連携し発足した「たてばやし創業応援ネットワーク」の一員として、創業希望者や創業後間もない事業者を強力にサポートしています。また、同ネットワークで開催する「たてばやし創業なんでも相談会」に毎年職員を派遣し、創業に関する相談を行っています。

創業支援に関しては、平成26年9月に創業を支援するため「たてしん創業支援資金」を新設しました。また、平成30年12月に日本政策金融公庫との協調融資商品「たてしん創業支援融資プラス」の取り扱いを開始し、創業者を積極的に支援する取り組みを行っています。

(2) 経営改善支援

経営革新等支援機関認定制度が創設され、当金庫は平成24年12月21日付で認定を受け、地域金融機関として今まで以上に取引先企業の経営改善等に鋭意努力しています。本年度は、支援先として11先を選定しました。経営相談室と営業店が支援11先の全先へ同行訪問し、コンサルティング機能の発揮、協働してソリューションの実施を支援しております。

(3) 事業再生支援

取引先の事業再生のため、融資返済条件変更等の支援の他、平成24年10月19日、群馬県中小企業診断士協会と業務提携し、必要とする顧客企業に対し、個別に専門家の派遣を実施、また、必要に応じて中小企業活性化協議会等と協力した事業再生支援を実施しています。

(4) 事業承継支援

事業承継対象先への個別訪問時において、事業承継に関するヒアリングを行い、事業承継に係る課題解決に取り組んでおります。ヒアリングした課題については、「事業承継共通課題シート」の作成により、本部と営業店において情報を共有し、経営者の状況や課題に合わせた支援活動を行っています。

また、当金庫・館林市・館林商工会議所の三者による「館林事業承継ネットワーク」を構築しており、令和4年7月に館林市内の事業所へ「事業継続と事業承継に関する意識調査アンケート」を行いました。同アンケートの集計を行い、三者間包括連携協定に基づく定期協議会の中で事業承継支援への取組みを協議し、官民一体となった事業承継支援を実施してまいります。

M & A 仲介業務については、群馬県事業承継・引継ぎ支援センターや信金キャピタル、(株)トランビへの仲介による支援を行っており、取引先の課題に合った支援方法を選択し積極的に取り組んでおります。

(5) ビジネスマッチング

営業店間の取引先のマッチングニーズ情報を共有し、当金庫内における個別のビジネスマッチングを積極的に推進しており、令和4年度上期の情報収集44件、成約6件、商談中3件の実績がありました。今後も取引先のビジネスパートナーとして、お客様の本業支援に繋がる営業体制を強化していきます。

また、令和4年10月に太田市新田総合体育館において、館林信用金庫・桐生信用金庫・館林市・太田市・桐生市・みどり市・伊勢崎市・桐生商工会議所の8団体共催による、「令和4年ビジネスマッチングフェア」の開催を予定しており、万全なコロナ感染症対策を講じて開催準備をしています。

2) 中小企業・小規模事業者の振興

当金庫は、地方創生及び地域産業の競争力強化を目的に、群馬県信用保証協会と営業エリア内の中小企業・小規模事業者への支援を協力して行い、地域経済の活性化と発展の促進を図るため、令和4年6月9日「中小企業・小規模事業者の振興に係る相互協力に関する覚書」を締結いたしました。今後も、中小企業・小規模事業者への支援をこれまで以上に広い分野で連携して取り組んでまいります。

3) たてしんビジネスクラブの活動

経営者の異業種交流を図る場として講演会や企業見学会等を行い会員相互の発展と交流のお手伝いを行っています。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、講演会や企業見学会等の企画を中止させていただいております。

4) たてしん会の活動

会員相互の親睦を図り、会員各位の企業の発展と館林周辺地域の産業経済の発展を図る事を目的としております。新型コロナウイルスにより中止していたゴルフコンペを感染症対策を徹底し10月に開催予定であります。

5) 年金・ローン相談会の開催

年間を通し毎月一回程度各営業店にて、年金裁定請求のお手伝いや加入記録、受給見込額の調査等の年金に関する相談会を行っています。また、住宅ローンをはじめとしたローン全般の相談会も同時に開催しております。

(本店営業部と板倉支店は日曜日、その他の店舗は平日に開催)

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、4月・5月・6月・7月・9月の計5回、開催しました。

6) たてしん年金友の会の活動

当金庫に年金振込指定されているお客様への感謝と、お客様相互の親睦を図ることを目的に、「たてしん年金友の会」バス旅行を毎年企画しております。

本年度は新型コロナウイルス感染症を考慮し、バス旅行の企画を中止させていただきました。

預金積金・貸出金残高

(単位:百万円)

	令和3年9月末	令和4年3月末	令和4年9月末
預金積金	135,680	137,574	139,121
貸出金	71,163	70,980	70,345
預貸率	52.44%	51.59%	50.56%

業種別貸出金残高

(単位:百万円)

	令和3年9月末	令和4年3月末	令和4年9月末
製造業	10,325	10,243	9,840
農業、林業	151	136	131
漁業	—	—	—
鉱業、砕石業、砂利採取業	—	—	—
建設業	6,039	6,261	6,746
電気・ガス・熱供給・水道業	1,486	1,123	1,030
情報通信業	1	1	0
運輸業、郵便業	2,528	2,616	2,479
卸売業・小売業	5,171	4,982	5,029
金融業、保険業	4,843	4,701	5,082
不動産業	9,583	9,293	9,666
物品賃貸業	546	500	500
学術研究、専門・技術サービス業	87	78	73
宿泊業	348	323	298
飲食業	725	742	781
生活関連サービス業、娯楽業	1,789	1,678	1,619
教育、学習支援業	231	226	220
医療・福祉	3,989	4,048	3,995
その他のサービス	3,097	3,438	3,380
小計	50,946	50,397	50,878
地方公共団体	7,960	8,505	7,583
個人(住宅・消費・納税等)	12,256	12,078	11,884
合計	71,163	70,980	70,345

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しています。なお、日本標準産業分類の改定に伴い、平成21年9月末より改定後の日本標準産業分類に準じて区分しています。

損益の状況

(単位:百万円)

	令和3年9月末	令和4年3月末	令和4年9月末
業務純益	255	368	217
実質業務純益	222	335	218
コア業務純益	182	295	220
コア業務純益(投信解約損益を除く)	182	295	222
経常利益	255	353	204
当期純利益	213	325	158

金融再生法ベースの債務者区分による開示(単体)

(単位:百万円)

	令和3年9月末	令和4年3月末	令和4年9月末
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	374	391	597
危険債権	2,579	2,379	2,009
要管理債権	14	16	15
正常債権	68,386	68,371	67,883
合計	71,354	71,159	70,505

(注) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権は破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。危険債権は債務者が経営破綻に至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。要管理債権は3か月以上の延滞債権及び貸出条件緩和債権に該当する貸出金です。正常債権は債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権です。

不良債権比率

	令和3年9月末	令和4年3月末	令和4年9月末
不良債権比率	4.15%	3.91%	3.71%

自己資本の構成

(単位:百万円)

バーゼルⅢ国内基準	令和3年9月末	令和4年3月末	令和4年9月末
コア資本に係る基礎項目の額 (A)	8,260	8,364	8,524
コア資本に係る調整項目の額 (B)	93	86	81
自己資本の額【(A) - (B)】 (C)	8,166	8,278	8,443
リスク・アセット等の額の合計額 (D)	74,682	74,853	75,139
自己資本比率 (C) / (D)	10.93%	11.05%	11.23%

自己資本比率は、経営の健全性・安全性を示す重要な指標の一つで、リスク（損失）が発生する可能性のある資産総額（リスク・アセット等）に対し、出資金や利益剰余金などの自己資本額が占める割合を示しています。国内で業務を行っている信用金庫には、4%以上の自己資本比率が求められています。

(注)「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」（平成18年金融庁告示第21号）が平成25年3月8日に改正され、平成26年3月31日より改正後の告示が適用されたことから、新告示（バーゼルⅢ国内基準）に基づく開示を行っております。

なお、当金庫は国内基準を採用しております。

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

	令和4年3月末				令和4年9月末			
	時価	評価差額	うち		時価	評価差額	うち	
			益	損			益	損
その他有価証券	38,445	△61	480	542	38,390	△868	406	1,275
株式	85	0	11	11	94	9	17	8
債券	28,062	162	340	178	27,600	△192	246	439
その他	10,296	△224	128	353	10,695	△685	142	827

(注) その他有価証券で時価のあるものを記載しております。「その他」は、外国証券、投資信託及びその他の有価証券です。

(単位:百万円)

	令和4年3月末				令和4年9月末			
	帳簿価格	含み損益	うち		帳簿価格	含み損益	うち	
			益	損			益	損
満期保有目的の債券	2,399	△76	4	81	2,499	△164	2	166
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 満期保有目的の債券は、外国証券および地方債です。

館林信用金庫

館林市本町一丁目6番32号

TEL 0276 - 72 - 5511

FAX 0276 - 74 - 4897

<http://www.shinkin.co.jp/tateshin/>

常勤役員数 120人

店舗数 10店

会員数 12,195名

出資金残高 206百万円



■店舗一覧及びATM設置状況等(令和4年9月末現在)

台数	店舗	住所	ATM稼働時間	電話
2	本店(本部・営業部)	館林市本町一丁目6番32号	平日 8:45~19:00 土・日・祝 9:00~17:00	0276-72-5511(代)
2	南支店	館林市本町四丁目7番20号	平日 8:45~19:00 土・日・祝 9:00~17:00	0276-72-4715(代)
1	大泉支店	邑楽郡大泉町富士二丁目5番12号	平日 8:45~19:00 土・日・祝 9:00~17:00	0276-62-5144(代)
1	西支店	館林市富士見町8番1号	平日 8:45~19:00 土・日・祝 9:00~17:00	0276-74-4100(代)
1	板倉支店	邑楽郡板倉町大字岩田913番地	平日 8:45~19:00 土・日・祝 9:00~17:00	0276-82-2321(代)
①	本店営業部 館林市役所出張所	館林市城町1番1号	平日 8:45~18:00	0276-74-9211(代)
1	邑楽町支店	邑楽郡邑楽町大字中野3163番地1	平日 8:45~19:00 土・日・祝 9:00~17:00	0276-88-7511(代)
—	本店営業部 北出張所(本店営業部内)	館林市本町一丁目6番32号	—	0276-72-5511(代) (本店営業部)
1	明和支店	邑楽郡明和町大佐貫182番地の5	平日 8:45~19:00 土・日・祝 9:00~17:00	0276-84-4111(代)
①	板倉支店 板倉ニュータウン出張所	邑楽郡板倉町朝日野一丁目14番地の1	平日 9:00~19:00 土・日・祝 9:00~17:00	0276-82-2321(代) (板倉支店)
①	アゼリアモール出張所	館林市楠町3648番地1	平日 9:00~20:00 土・日・祝	0276-72-5511(代) (本店営業部)

※ATM12台うち店外ATM3台(○印)